

2023年7月6日取材

JALレーク滋賀
高島地区

産地レポート

メロン

「風車メロン」ブランドを支える

「レノシム」「レノシムウエーブ」

(編集部)



↑左からJALレーク滋賀営農戦略部TAC推進課の中辻秀章係長、生産者の棟方千二郎さん、佐々木幸則さん、JALレーク滋賀今津営農経済センター新旭支店の中村大地さん。

地域概況

JALレーク滋賀は令和3年(2021年)4月1日、滋賀県内の8つのJA (JALレーク大津、JA草津市、JA栗東市、JAおうみ富士、JAMキノ町、JA今津町、JA新旭町、JA西びわこ) が合併し誕生しました。その中の高島地区は琵琶湖の北西部に位置し、西側には野坂山地・比良山系の山々が連なり、東側には安曇川などの河川によって作られた平地が広がっています。当地区では富有柿や高島イチジク、泰山寺ダイコン、万木カブなど地元で愛されている歴史の古い果実や野菜をはじめ、JALレーク滋賀のブランドメロンの一つである「風車メロン」や「金太郎」マクワ、キャベツなども栽培し、ブランドを活かした直売所・通信販売から京阪神への市場出荷までを担っています。

「風車メロン」

高島市内でのメロン栽培は昭和60年ごろから始まり新旭風車村(現道の駅しんあさひ風車村)の開業を機に風車メロンとしてブランド化しました。風車シリーズは現在メロンのほかスイカ(縞皮大玉・小玉)、キャベツに拡大し地域の特産品として販売しています。

JALレーク滋賀営農戦略部TAC推進課の中辻秀章係長によると「風車メロンは市場出荷をせず、特設販売所やお中元、ふるさと納税の返礼品などで完売されます。期間限定でJA全農のネット販売JATタウンでも販売しています」と長らく風車メロンを気に入ります。数年前から地元洋菓子店とコラボし、風車メロンを使ったパフェやロールケーキを販売。JAカルチャースクールで風車メロンを使った料理教室では当初の募集に対して10倍以上の申し込みがあり「参加枠を倍に増やし予定数以上の玉数を準備した」とJALレーク滋賀今津営農経済センター新旭支店の中村大地さんも人気の高さに驚かされたそうです。地元での定着も進んでおり、毎年夏休み前日には高島市



↑昔から作られてきた「金太郎」マクワ。



↑(右下)葉に交配日を記した後、交配日ごとに色別の棒を立て、適期に収穫できるようにしている。



↑土壌消毒したハウスに自根育苗した苗を定植、地這栽培で2本仕立ての4果どり。交配日を見て、収穫日を確認する佐々木さんと中村さん。

の学校給食に提供し地元の子どもたちも楽しみにしているとか。

風車メロンは緑肉のアールス系は贈答用に2玉箱でアンテナ付き、赤肉の「レノン」はアンテナを付けず3〜6玉箱で出荷します。これは箱詰め時にスタップがアンテナのあるなしを目印に取り違えない工夫です。2L〜4Lまでの出荷規格のうち3Lと4Lが8割を占め、糖度や外観により特秀、秀、良の3段階の等級に分けられます。選別は生産者が出荷時に選果し、直売所内でスタップによる検品を行います。

割れが少ない「レノン」メロン

もともと農協の職員をされていた佐々木幸則さんのご実家は親の代からメロンを栽培されており、最初は「アールスセイヌ」や「アンデス」メロンの緑



↑収穫間近にせまる「レノン」。今年も太いネットが密に入り上々。

肉だけでした。約10年前から赤肉メロンの導入に向けて数品種の比較試験を

始め、その中で安定して糖度がのり、割れが少なかった品種が2004年に発売された「レノン」でした。「アンデス」や「グレース」などほかの品種も栽培していましたが、そろいが悪かったり大きな割れが出た中で「レノン」は割れがありませんでした。それ以降、雑ネット系としては「レノン」一本に絞りました。現在も「レノン」を主体に、暑さが厳しくなる後半の作型は耐暑性のある「レノンウエーブ」を使い、2品種を合計約1.1haのハウス5棟で栽培されています。

訪問した収穫前の7月上旬は暑く、しっかりと換気をしてもしおれや登熟に影響するため、遮光資材を使ってしおれを防止されていました。「レノン」メロンを栽培し約10年以上、「レノン」は肥大がよく果肉がやわらかいですが、少し発酵果が出やすい感じですが、「レノンウエーブ」は暑さに強く、果肉はかためで発酵果は出ません」と品種の特性を理解されていました。

長く愛されるブランドメロンとして

現在、メロン栽培は高島市新旭町2名、今津町1名の3名で行っており、栽培開始当初6名いた生産者は減少し

ています。主な理由は土壌消毒の手間がかかることや栽培がなかなか安定しなかったことで品目を変えたためです。現在「ダブルガードパワー」へ自分で接ぎ木を行っている佐々木さんですが、自根で耐病性をもつ「レノンスター」へ高い関心をもたれています。

高島市内ではJAレック滋賀新旭支店管内だけで風車メロンを栽培しており、JAと3名の生産者と二人三脚で地元ブランドを支えています。「毎年楽しみにされているファンの方や、直売所を訪れるお客さまのためにも『レノン』シリーズの栽培のしやすさや品質の高さが、風車メロンブランドを維持していくためには必要です」と中辻係長の「レノン」シリーズへの信頼の厚さを感じられました。



↑風車メロン特設販売所に並ぶ「レノン」メロン。